

るこ店を開き相當の客足を迎え居れり。

●長田帳場 仲之町に在り。人力俵帳場として當地唯一の信用を博す、主人長田惣次郎氏は川邊郡多田村多田院の産、幼少より池田に出て明治四十四年斯業を始め常に「働く」と云ふ二字を念頭に置き拮据精勵の結果今日の隆盛を見るに至る。目下車臺十七輛を有し室町に支店を置いて顧客の利便を圖る傍ら本年六月林口町廉賣所の開設に際し生魚商を營み之れ亦人氣良し。

●運搬業藤井組 西之口吳服座南隣に在り。牛馬十餘頭と車輛十餘臺を所有して北攝地方最も大規模の運搬業を營めり、主人藤井熊吉氏は本郡秦野村の人、歐洲戰爭當時の好況時代に際し巨富を贏ち得たる成功者中の一人として巷間に其の聲名を謳はる。令弟寅吉氏亦非常の活動家にして能く賢兄の業を扶け相和して業務に精勵せる兄弟の美しき情誼は他の模範とするに足る。●めん茂樓 本町に在り。明治九年の開業にして細原茂雄氏の經營に係る。細原氏の先代は當地木綿商の鼻祖たり、即ち木綿商の「綿」と茂雄氏の「茂」各一字を取りて現稱の樓名と爲す。百疊敷の大廣間を始め松竹梅、雪月花、鶴の室、狸々の間、紅葉、櫻等の優雅なる名を配したる大小數十の室あり。更に茶室を設へ飛瀑を築きたる湯殿を有し其の規模の大と設備の完璧と調理の優秀なるとは當地隨一にして亦北攝有數の青樓たる名聲を博せり。細原氏は吳服檢商事會社の重役たる外二三會社の重役を兼ね有力なる實業家として衆望頓に噴々たり。

●角糸樓 建石町にあり。百年前の創業にして當地に於ける最も古き青樓なり。其の建築の風

雅にして古味を帯べるは清興の士をして風懷の思ひに堪えざらしむるものあり。土地高燥に位して眺望佳絶、樓欄に倚りて望めば豊川の平野脚下に展けて風光詩趣を湧かしむ。女將甲字ナ

ル子の營業にして婦人ながらも稀に見る超凡の商略に富めり。

●富士市樓 本町にあり。當地一流株の青樓として名を爲し常に絃歌の賑ひ絶ゆる事なし。町會議員藤本由松氏の經營にして氏が町治の爲めに盡瘁せる功績は記して別項の如くなるを以て

茲には重複を避けて省略し置くべし。

●みやこ楼 南新町にあり。明治十年の開業にして當地一流株の旅館料理業として角糸、富士市と共に其の名を謳はる。樓主藤井福松氏は吳服檢商事會社、池田興業會社等の重役を兼ね少壯の實業家として令聞あり。大正七年七月現在青樓の南隣にミコヤ商店を開業し和洋酒食料品小間物雜貨等の販賣を營み北攝隨一のデパートメントストアとして内容、外形共に他に比隣なき聲價を博せり。櫻正宗、アサヒビール、三ッ矢サイダー、銘酒都踊等の特約店として販路廣く顧客多し。

第四章 工業

池田町の工業

池田町の工業として殆ど見るべきものはなし。其の之れありとするも尙ほ幼

稚なる家庭工業の域を脱せずして組織的に機械工業の發達を見る能はざる事は、古來當地が商業の都府たりし運命と近時郊外住宅地として發達せんとする趨向あると、更に工業自體の立場よりすれば當地が交通運輸の關係により原料、製品の需給搬出上に決して適當の地にあらざる等の事より稚々として發達を見る能はざるが如し。但だ猪名川の流水を利用せる獸皮工業、織工業等は既往より比較的よく發達せるも何れも對岸川西村を根據に其の所管に属せるを以て別項「川西村」の部に於いて詳記する事にし爰には單に其の筋に於いて調査になれる二三工場のみを錄載すべし。而も开は何れも未だ工場法の適用を受けざる程度のものゝみにして左記上島工場の如き最近猪名川染織工場に買収されたるを以て近く組織の變更されるものもありと知るべし。(五年度調)

名 稱	創立年月	目的事業	生産高	代 表 者
池田化工製紙場	大正五年一月	製 紙	一八、五三八	池田 徳次郎
上島莫大小工場	大正九年十二月	眉造メリヤス製造業	二五、〇〇〇	上島 兼四郎
結紐製造場	明治二十年	寒 天	四、二五〇	岡本 徳次郎
商榮社分工場	大正八年十月	竹玉簾製造	六〇〇	北島 國太郎
箕面脚氣研究所製藥工場	大正八年五月	スバルン製藥	四、五〇〇	進藤 まさえ

現代酒造業 往昔に於ける池田の酒造界が如何に芳銘を天下に傳へたるかは前述の如くなるを以て茲には省略し、現代酒造家の生産高を左に錄して在りし昔の名残を偲ぶに留め置くべし

氏 名	創業年	醸造高	氏 名	創業年	醸造高
西田庫之助	弘化四年	八〇〇石	岸上 又吉	明治三年	六三〇石
吉田榮三郎	慶應元年	六二〇	北村伊三郎	天明三年	七〇〇
北村儀三郎	天明三年	七〇〇	戸田利三郎	元治元年	七四七
北村 富松	明治七年	八四九			
池田炭	一、九〇〇	(醸造高は九年度調)			

北村 富松 有名なる池田炭は舊能勢郡及び奥川邊を其の製産地とし昨九年の産額五萬九千三百貫あり、本年度は夫れより約二割方減少の見込みなるが、今池田木炭會社の調査に依れば本年並に來春の管外移出見込みは百一萬七千貫、管外移入八十八萬八千貫、前年に比し移出二十五萬貫移入二十二萬貫位の減少なるべし。製産高の増減は産地の伐材關係に因り將來悲觀するに及ばざるも茲二三年來炭價が非常に暴騰したる爲め製産に力を入れたる結果原料材を濫伐せると加工賃の昂騰とにて本年度は九月以降俵五十錢高を唱え昨年に比し十錢宛高し。諸物價の低落せざる限り現在の炭價は當分保合ふものと觀測され居れり。

蜜柑 農家の副産物たる蜜柑は舊に池田町の産物たるのみならず廣く豐能郡の特産物として名あり、池田町を始め秦野、箕面、萱野、櫻井谷、豊津村等を重なる産地とし概ね池田の間屋

の手を経て京阪神地方へ搬出され其の販路頗る廣し今より二百餘年前元祿、寛永の頃始めて之れを移植栽培したるものにして溫州蜜柑を筆頭に九蜜柑、平蜜柑等を栽培す。慶應年間當地の蜜柑を京都御所に献して大に嘉納せられたる事あり。爲めに爾來愈々其の聲價を高む。今郡内最近の産額統計を示せば左の如し。

年次	樹數	收穫高	價格	單價	年次	樹數	收穫高	價格	單價
三年	二四、四九〇	四九、八二〇	五七、七四〇	一四〇	四年	二四、〇〇〇	五五、五〇〇	八、一四七	一五〇
五年	二八、九七〇	四三、七五〇	二六〇	六八	六年	二〇、九七〇	八七、三六〇	三、五七	三五〇
七年	二八、〇〇〇	一九、九六〇	九、九七三	三三	八年	二〇、五〇〇	三三、九六〇	八、九七	三六〇
九年	二五、七五〇	六五、五七〇	六、七三	三八〇					

柿及卷柿 池田町以北の山間地方就中田尻、西郷、止々呂美、東能勢の諸村は古來柿の産地として知られ之れ亦本邦特産物の一たり。今を去る二百三十餘年前即ち天和六年頃より池田の酒造家にて澁の需要が増加するに従ひ澁柿を栽植するもの漸次増加し其の後果實の嗜好需用順に増進したる結果品種を選擇して改植し遂に今日の食用柿を産出するに至れるものなり。地理の關係上食用柿は總て池田の間屋の手を経て京阪地方へ搬出され逐年其の需用は増進す。大正三年以後の製産高左の如し。

年次	樹數	收穫高	總價格	年次	樹數	收穫高	總價格
三年	二七、五九	五、二九	八、八六〇	四年	二五、二五	二〇、九六	一五、二九
				五年	二六、四九	二六、五四	六、三三

六年 二、四〇〇 一四、六四 三、〇天 七年 一八、五六 三、六九 八年 一八、五二 七、三二五、七五
九年 一九、七四 四、四〇 一八、一六〇

尙ほ食用柿と共に特記せざるべからざるは、元新町原商會の製造發賣せる卷柿（一名柿羊羹）の事なり。同品は明治三十九年果實の乾柿を以て製造に着手し其の後苦心發明の結果四十二年漸く好成績を得汎く販賣するに至れり。需用日と共に増進し販路亦擴張管内内地のみならず近來に於いては海外に輸出も非常の賞讃を博し池田名産の一たる聲價を贏ち得るに至れり。各博覽會及び品評會共進會に出陳して銀銅牌、褒狀等の授與少なからず、會主原角太郎氏は創造發明の才に富み亦公共の念敦く衆望あり。

水産物 昨九年度に於ける水産物の産額左の如し。就中鮎は猪名川の名産物として聞え往昔近衛家より懇望され年々献納して益々名聲を馳するに至れり。近時稍産額の減退せる傾向あるも尙ほ夏季鮎狩りの候に於いては京阪神地方より遊獵に來たれるもの少なからず。目下當地には三十餘名の漁師ありて斯業に従事せり。

鮎	數量	價格	數量	價格	鮎	數量	價格
鮎	三〇	一、七五	二七	元	鮎	一〇〇	一〇〇
鰻	六〇	一、五	二、三	計	三九	二、三五	

畜産其他

九年度に於ける重なる畜産は畜牛十八頭、此價格三千六百圓、牛乳百二十瓦、此

價格六千三百二十九圓。林産物たる松茸が二百六十貫、此價格二百六十圓、其の他桃、水蜜桃、枇杷等の産出あるも何れも隣郷より當地問屋へ搬出されるものにして的確なる數字は得難し。

第五章

藝術及娛樂

池田の俳界 由來商業中心の當地は物質的に反する精神的交渉事象の見るべきものなく、世に所謂文人の乏しきが中に、唯獨り俳句のがみ旺盛時代を提出し居れり。當地俳句會は大正元年頃林田炭翁、中井英花、寺部吳蛙、清水鐵牛緒子等の主唱にて櫻炭會を組織せしが最近に於ける斯界興隆の濫觴にして大正四年前後同會は解散の狀態となり、其の後漸く擡頭し來たりたへて皐雲吟社を創設されるに至りしが、其の句作の内容に到りては殆ど過去の月並調と異ならず加ふるに何等一般的俳界に交渉を有せず唯だ遊戲的井中蛙の觀を免れざる狀態なりしかば、當時『層雲』の井泉水氏の俳論に親炙しつゝありし鐵牛、南畝子等は斯かる作句態度に慚らずと爲し遂に同子等中心となりて現在の光雲社を樹立するに至る。目下光雲社は青木月斗子の統率する『同人』派に屬して地方俳界の一權威を爲し幹事に南畝、秋子、水軒、洞春、栗廬、鐵牛の諸子、竹流、月史、花醉、甲光子等の會員二十餘名を有し池田に於ける俳界王國の觀を呈す。

其の他の著名俳人に英花、靜居、君女子等あり、波々部柳雨子は獨り松瀬青々子の主宰する『倦鳥』派に屬して名を爲す。尙は林田炭翁子は漢詩に永田北城子は和歌に俱に一家を爲して名あり千鳥會 謠曲の同好者を以て組織したる會なり。毎年一回大會を開きて斯道の研鑽を怠らざりしが本年十二月より毎月一回第二土曜日をトして定期謠曲研究會を開催し一般に之れを公開するに至る。現在幹事は左の諸氏にして孰れも十年以上を修業せる免許所持者なり。

井上信、橋本省三、林新藏、岡本啓、和田義三、永田儀三郎、甲川順造
清吟社 本町入江欽四郎氏を會主とせる謠曲の會なり。幹事中川綿月氏外十二名、現在會員七十二名を有し二箇月目毎に一回めん茂樓にて例會を開き年一回大會を舉行す。

吳竹會 小阪前福井吳山氏を會主とせる郡山流尺八の會。創設以來十箇年を経過し門下生五百名を出だすと共に師匠三名を輩出せり。毎年一回大演奏會を催し攝北斯界の權威たり。

おぼこ會 明治三十四年春西之口小來田定治郎氏等が組織せる淨瑠璃の會なり。其の後一時中絶し大正七年四月小來田定次郎、藤本由松、中西音吉、西川貞三氏等再興を圖り現在鶴澤森三郎氏に師事して熱心精勵し居れり。小來田氏は末廣と號し天京の成せる美聲を以て斯道の蘊奥を究め既に一家を爲して攝北斯界の第一人者たる事は世人の周知する處なり。

旭勢會 大伴旭勢氏を師とし筑前琵琶の會なり。大正五年組織、現在幹事左の諸氏。

久代旭功、阪本旭芳、藤井旭郁、阪本勢潮、加島旭港。

鳴鳥會 池田及び寶塚の繡眼兒飼育の同好者を以て本會を組織し毎年一月より七月迄毎月一回競聲例會を開く。現在會員左の諸氏。

植村孝次郎、横田淺次郎、藤岡秀吉、中西恒太郎、角野龜太郎、今田龜吉、今北徳一、久代光太郎、山中猪三郎、中野佐太郎、岡田三郎、氷室宗太郎(以上池田) 松本久藏、富永、安原、下野、阿部、田中、藤井(以上寶塚)

劇場寄席 劇場吳服座は西之口に在り、田舎じゆう氏の所有に係り常に一般新舊劇を興行し入場定員八百名、寄席明治座は大西町に在り、上村喜三郎氏の所有にて目下飯田孝太郎氏の經營に係り大阪親友派浪花節及び入場定員四百名吉本興行部なる花月亭の落語等を本位に興行し入場定員四百名。尙ほ對岸吳服橋西詰に川西座あり吳服座に次ぐ當地有數の劇場にて入場定員七百名。



氏郎太善村橋

氏は川西村能勢口に居住し信託業を營むは江州の産れにして資性濃厚篤實人と交はるに懇篤なる親切を以てす兎角信託業者中には時流の惡弊に染みたる輕薄者輩の少なからざるが中に氏の如き誠實の人あるは大に慶びとすべく氏の望望たる人として鳴れるも故ありとすべし。亦山村氏と共に本事業に翼賛し盡さる底援の功淺からざるものあり即ち茲に記して以て謝意を表す



氏式啓木荒



履草種各履草ムゴ
賣小卸造製
店商岡松
町中田田池下府阪大

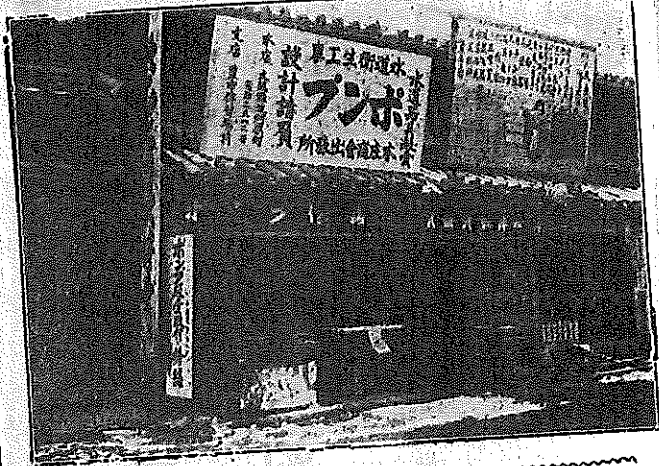


石井林口町區長石井竹四郎氏は本郡北豐島村の産、多年區長職に在りて町治の爲めに盡瘁し、第一回國勢調査に際しては調査委員を囑託され克く其の任を完了して令名あり。家業は傘提灯及び旗幟の製造販賣を營む。調製の迅速なると價格の低廉とを以て當地斯業者間に重氏きを爲せり。

七七

池田林口町

傘提灯製造販賣 引まく幟調進所 石井本店



營業課目
專賣改良竈
特許酒造大竈
煉瓦積立請負
セメント、色土色砂
美術洋館敷付瓦
洗面器、兩便器
スット金物
建築金物
化粧品並ニ左官一式
建築器材
建築材料
ポンプ販賣取付
並ニ修繕

池田本町
塚原建築部
塚原治三郎 主店



サクラビール

特約店

池田北之口町

酒類商 今仲政雄



生松丸太販賣
製材業

川西村新宅橋西詰南入

清水藤兵衛商店

電話特一四一番

工場 池田新宅橋西詰

酒類商
並ニ
洋酒罐詰
新刊雜誌

店商本岸

前居島社神服吳



業造製靴
助柳川瀬初

町田池上田池

建築請負業

勝村組

兵庫縣川邊郡山本村

諸紙商
佐藤紙店
文房具
店主 佐藤平三郎

池田西之口町

池田本町

各國諸油
板硝子
商山城商店

池田名産

正

輕便切炭
丸炭團
京形炭團

製造發賣元

正本商店

池田北ノ口(新宅)

工場川邊郡西村出在家

▼御註文の節は多少に拘らず配達す

製造能力
炭團一日六千個

▼北攝唯一の炭團供給所



株式會社

廣根銀行

川邊郡川西村吳服橋西詰

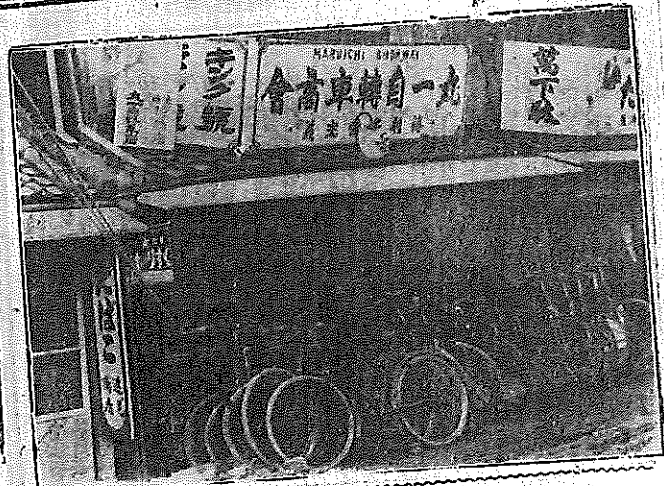
主任 廣芝茂 一派所

川邊郡六瀨村

川邊郡西谷村

西谷

支店 支店

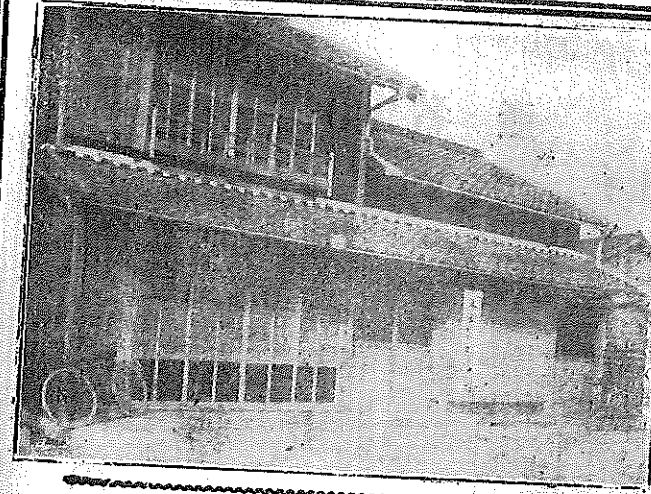


薄利多賣主義

キ
ラ
イ
ン
ン
ク
ン
シ
號
號
號
特
約
店

白轉車商會

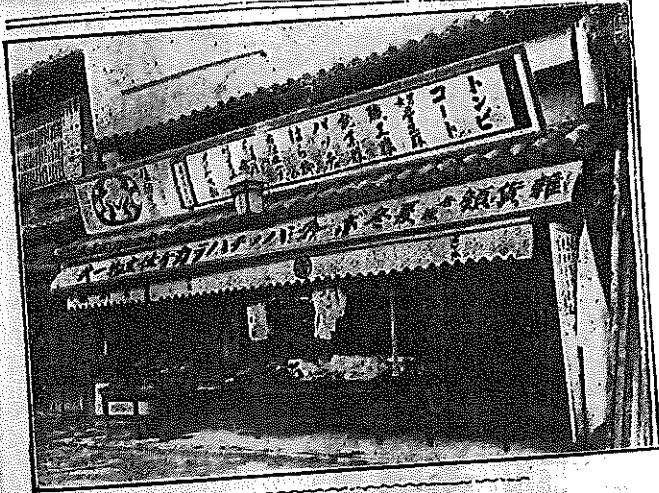
本店
支店
川西
川西
吳新
服宅
橋西
西詰
詰



製材業

木田義太郎商店

工場 川邊郡川西村寺畑
本宅 川邊郡多田村矢間



●洋服類
 ●トンビ仕
 ●コート
 ●和洋雜貨
 ●立所
 ●パッチ
 ●腹掛

池田元新町
吉田商店
 店主 吉田余三郎



製靴並三修繕

大阪兼崎靴店

支店 能勢口屋

營業所
自宅

阪急能勢口停留所前
川西村鶴之莊阪急踏切西南側

能勢電鐵會社
阪急電鐵會社
猪名川整理工場
御用達

建築請負業

池田建石町

石田組

石田喜多造

建築請負業

池田西之口町(吳服座前)

大澤熊吉

山城銘茶
及抹茶

茶道具
生茶器具

池田西之口藥師前

二葉園

荒川菊太郎

池田西之口町

表具師

鈴木松華堂

店主 鈴木與三郎

表具師
並二
建具商

中川精華堂

池田南新町



平卯石碑店主

石碑専門

池田柳屋町但シ西光寺東門

平卯石碑店

主 平野卯一郎

平卯ハ石碑専門本位ナリ

平卯ハ彫刻丁嚙價格勉強

木炭問屋

池田北新町

近伊事 清水伊助商店

電話池田百七十三番



店主

植村孝次郎

嫁入道具漆器各種販賣

植村道具店

池田元新町

吳服太物商
並洋反物類

池田西之四町

永田吳服店

店主

永田儀三郎

電話池田六番

產科婦人科

泌尿科

(男腎臟膀胱
女尿道ノ諸病)

池田室町(下ノ宮島居南入)

森醫院

電話貳〇四番

診察時間

午前八時より十二時迄
夜間六時より十時迄



蒲 蚊 綿 敷 吹 蒲
團 帳 類 島 止 團
中 入 綿



平 井 商 店
池 田 本 町



吳 足 雜
服 ヤ 足
袋 袋
商

川西村吳服橋西詰



渡邊萬次郎
店商

各於博覽會有功賞領



京吳服

品ト柄

京都紅屋吳服店

池田支店

御嫁入用紋附小袖一式

(電話六十六番)

御注文の節は丁寧と迅速を

旨として廉價確實に調達可仕候

各國木炭
石炭コース
無煙炭
商

池田仲之町

森田孫太郎商店

吳服太物
並洋反物

池田西之口町

村西吳服店

電話二〇八番

官許
大人はりやいと
小人

池田南新町

松月堂 藤井鍼灸療院

院主 藤井 正一